

日本植物形態学会の更なる発展を願って

第8代会長 今市涼子
(日本女子大学名誉教授)

日本植物形態学会が30周年を迎えました事、心よりお慶び申し上げます。設立以来の会員として、私も大変嬉しく思います。私は、前会長の田中一朗先生の後を受け、2008年から2011年まで、本学会の会長を務めさせていただきました。その前後を含む数年間は、ちょうど学会の「かたち」が整った時期だったかと思います。2007年、発足以来20年にわたる学会員の皆様のお力やご努力が実を結び、日本植物形態学会は日本学術会議協力学術研究団体に登録され、学会として一人前になりました。学会誌 PLANT MORPHOLOGY も大きく変わりました。2010年に表紙デザインを一新し、中身も2段組にして読みやすくしました。さらに、PLANT MORPHOLOGY 全バックナンバーの論文 PDF ファイルが JST ウェブサイトで公開になった事は嬉しい事でした。また、それまでのホームページ委員会の名称が広報委員会へと改められるとともに、広報の体制が強化されました。4年間の任期中、まさに「痒いところに手が届く」坂口修一先生が庶務幹事として力を尽くして下さいました。また、会計、編集委員会、広報委員会の先生方にも多大な労力とお時間を使っていただきました。皆様へ感謝の気持ちで一杯です。

本学会は、植物の「形」を扱う様々な分野の研究者、特に若い研究者の情報交換の場となることをめざして出発しました。小さな学会の良さでしょうか、秋の「大会」は、手作り感満載で、和気あいあいとしていて楽しいものです。ただ、大会を準備する側は結構大変です。私の経験でも、大会当日は時間との戦いで、ポスターセッションまでたどり着いてやっと一息つけた、という感じでした。また、大会後の懇親会も情報交換の場として重要、ということで、懇親会の場所選びや準備に結構な時間と手間をかけたのを懐かしく思い出します。

学会設立時の初代会長を務めた原襄先生は「植物の形態・構造、そしてその機能に関連した分野の研究者が、新しい技術や思考の流れを積極的に議論し、実質的な相互の交流の場を持つ」との趣旨のもと、本学会を作ったと書かれています。私自身は、シダ植物を材料にした組織学から研究を始めましたが、学会設立当時は種子植物も含めた形態多様性に興味をもっていましたので、本学会で様々な実験・観察手法を知ることや、分子から器官まで様々な分野の方々と議論ができることは、大変嬉しい事でした。しかし、私が会長を務めていた頃からでしょうか、様々な植物群を扱う研究者や形態多様性に興味をもつ会員の大会参加が少なくなってきたように思います。情報交換、交流の場として本学会が発展するには、多様な研究分野の方々が集まる必要があるのではないでしょうか。また、現在は、学問の細分化とともに、従来の学問分野の境界を越えた新たな学問分野の創成が期待される時代でもあります。このような状況にあって、本学会が「形」を機軸にしながらも多様な分野を包含す

るのは大切な事だと考えています。30周年を機に、日本植物形態学会が更なる発展を続けることを願って止みません。